



# 第1回合同WG提案内容についての結果報告

2019年9月12日

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

# 1. 第1回更改専門部会議事要旨

## 第1回更改専門部会 議事要旨

- 日時：令和元年8月8日（木） 14:00～15:00
- 場所：ソリッドスクエア ホール（ソリッドスクエア地下1階）
- 議事の概要
  - 開会
    - NACCSセンターより、次のとおり、更改専門部会の設置根拠及び設置に至った経緯について説明を行った。
      - センターの内部規程である情報処理運営協議会運営規程において、専門部会は、情報処理運営協議会により設置されるものであることが規定されている。
      - 平成31年3月8日に開催された第11回情報処理運営協議会にて、次期システムの仕様に関して、官民利用者により検討を行うための専門部会を設置し、またその下に必要なワーキング・グループ（以下、WG）を設置すること等が了承された。
  - 部会長選出
    - 更改専門部会の部会長に、東京税関鈴木総務部長が選出された。
  - 取締役挨拶
    - センター徳取締役より、更改専門部会開催にあたり、NACCSを巡る最近の動向についての説明や、委嘱を受けて頂いた委員の皆様への謝意を述べた。
  - NACCSの更改について
    - 事務局より、議事資料2に基づき、第6次NACCSに至る沿革（NACCS発展の歩み、NACCSを取り巻く環境）及び第7次NACCS 更改（開発コンセプト、専門部会の構成、スケジュール）についての説明を行った。
  - 更改専門部会における主な検討事項（案）
    - 事務局より、議事資料3に基づき、開発コンセプト及び利用者ニーズを踏まえ、主な検討事項を提案し、また、専門部会等の開催日程と進め方についての説明を行った。
- 意見交換の概要
  - NACCS利用時の入力作業の負荷軽減や入力支援をしてほしいが、7次ではどの様に考えているのか。何らかの提案はあるのか。（委員）
    - ⇒ パッケージソフト等における利用者の入力支援は、今後どのような技術が使えるかも含めて検討をすべきと認識している。また、画面やそこにどのような情報を入れていくのかなど、WG等を通じて検討し改善に繋げていきたい。（事務局）

- JASTPROコードを持たない輸出入者の法人番号に紐づく英名補完は、利便性という観点からセンターで提供する等の検討は第7次更改の議論の中で行うのか。（委員）
  - ⇒ 既に申告の際に法人番号を用いることはご承知おき頂いている通りである。弊社単独で進められる案件ではなく、利用者の皆様の利便性を下げないように、関係機関等と相談させていただきながら、本部会等においてコストや利用に当たっての手間等も併せて検討し、良い形を考えていきたい。（事務局）
- 添付ファイルの制限値の検討は第7次の更改のタイミングで検討するのか。あるいは現行（第6次）中での変更を考えているのか。（委員）
  - ⇒ 制限値の拡大のニーズは多く頂いているが、ネットワークの大きさや各自社システムとの関係も含めて、第7次で検討していきたい。但し、影響の少ないものについては、現行の中でも考えていきたいと考えている。（事務局）
- RPA等の最新技術の導入について具体的なイメージはあるのか。（委員）
  - ⇒ 具体的で良い提案・示唆があればいただけるとありがたい。技術の進展を注視しながら、どのような技術がどういところで一番活かせるのか、利用者のコストや利便性の向上等をも考慮しながら検討していきたい。（事務局）
- 周辺の貿易連携基盤との連携の可能性について、現在具体的に連携を想定する情報基盤はあるのか。また、その接続の時期は第7次更改のタイミングとマッチするのか。その場合、接続相手先とどのように連携していくのか。（委員）
  - ⇒ 時代背景的にAPI公開等を通じて、相手先が誰という特定をせずに、全方位を見ながら柔軟な対応ができるよう系統的に考えていく必要があると考える。それらとNACCSとの関係をどの様にしたら利用者の皆様が一番メリットを得られるのかを念頭に検討を進めていきたい。（事務局）
- 説明頂いた資料3の検討課題については、これで確定されるものか。今後追加できる機会はあるのか。（委員）
  - ⇒ 今後のWGでの議論に応じ、追加していくべきものは適宜追加をしていく。（事務局）
- 10月以降のWGについて日程が決まっていれば前広に知らせて頂きたい。（委員）
  - ⇒ WG開催は、原則毎月の第二週目の木曜日を予定している。なお、9月は12日に今回と同様に合同WGとしての開催となるが、10月以降については個別のWG毎の開催とし、第二週目の水、木など二日にわたっての開催を想定している。日程は出来るだけ早めに案内差し上げたいと考えている。（事務局）

以上

## 2. 第1回合同WG結果報告

第1回合同WGでの意見・要望は下記の通り。なお、「業務仕様の考え方」・「国際連携機能と各種デジタルプラットフォーム連携について」に関しては意見等はありませんでした。

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;オンライン業務の統廃合&gt; 統合後の業務コードが海上に合わせてあるようだが、項目の並びについても海上の並びが基本になるのか。</p>	<p>追加となる項目は、貨物管理番号とAWB番号の2つとなり、追加するのであれば海上業務に、航空のAWB番号を追加する形が考えられるが、詳細については、詳細仕様の検討の場で議論したい。また、本提案は海上業務での提案であるが、海上に合わせる事が決定事項ではない。</p>
<p>&lt;WebNACCS対象業務の拡大&gt; 1. パッケージソフトではなく、WebNACCSで業務をする事のメリットは何か。 2. 船舶代理店による利用がメインだと思うが海貨業務等に利用を広げていく検討は行わないのか。</p>	<p>1. 第6次NACCS更改時に、船舶代理店からの要望があり提供を始めた。パッケージソフトと比べて、ブラウザがある端末であれば業務を行える点がメリットとなる。当時、モバイル端末での提供も検討したがデジタル証明書等セキュリティ確保の観点から、モバイル端末での提供は見送っている。今後、更なる利便性を高める為にモバイル端末の利用やデジタル証明書の見直しの検討などを行っていく。</p> <p>2. 他の業種の方もWebのメリットを享受できるのではないかと考えており、今後のWG等を通じて対象業種拡大の要望があれば検討をさせて頂きたい。</p>
<p>&lt;インターネット経由の新たな自社システム接続方式&gt; 1. ebMS廃止について利用者に対し、事前に意見交換等を行っているのか。 2. これは決定事項ということか</p>	<p>1. 現在ebMS処理方式を利用されている輸出入者と意見交換等を事前に行っており、センターから変更に関する情報の提供を前広に行うのであれば、自社システムの改変に関しても特に問題ないとの意見を多く頂いている。</p> <p>2. WGで承認が頂けるのであれば、決定とさせて頂きたい。</p>
<p>&lt;メール処理方式の廃止&gt; ゲートウェイ接続している利用者にとって、方式の変更は影響が大きいように思われるが、ヒアリング等を通じて大きな反対はなかったのか。</p>	<p>開発コストの削減という観点で、自社システムとの接続処理方式の集約化の検討として提案している。代替接続方式への対応が難しいということであれば、メール処理方式を引続き提供させて頂くことも検討する。</p>

意見・要望	検討内容（回答）
<p>&lt;その他&gt;</p> <p>1. 今後のWGの議論を通じて、周辺環境の変更等により必要が生じた際に法律等の制度改正の提言等を行うことも想定しているか。更改は6年後であり、ここ数年でも国際貿易情勢は大きく変わっている。現状の基本仕様を踏まえた更改検討ということだが、現状でもeコマースの増加などを背景にサーバ等へのシステム負荷が限界に近くなってきていると感じている。今後益々増加が見込まれるeコマース貨物の申告用として、新たな申告方法の新設などシステムの観点からの制度改正の提言をしていくべきである。他方で少子高齢化が進み若い労働力確保が厳しい状況や働き方改革等の動きがあり、RPA等を駆使したルーティン業務の自動化処理は必然であり、その場合、通関営業所内ではなく固定費の安い海外や地方都市などでの処理となると思う。また、現在の自宅に限定された在宅勤務では多様性のある需要には対応できないため、在宅勤務、テレワーク、前述の通関営業所外でのRPAなどの自動化処理をするために障害となり得る法律の改正等も視野に入れていかないといけない。</p> <p>2. 貨物の状況通知サービス、VGM対応なども検討に入っているが、利用者の範囲を広げていくことを考えているのか。</p> <p>3. VGMがWebで行えれば、渋滞の緩和などにも寄与するのではないか。</p> <p>4. 毎回、課題の持ち帰りから意見の集約、提出まで1週間と短い。もう少し余裕を見た期間設定をして頂けるとありがたい。</p>	<p>1. 関係省庁の方にも傍聴頂いており、業務仕様にまとめる過程で、こうしたWGの議論も通じてコミュニケーションを深めていきたい。</p> <p>2. 貨物の状況通知サービスについては現状NACCS利用者ではない陸運業もサービス対象になると考えている。現時点では利用者業種の拡大とまでには至っていないが、今後本件をWGで提案し検討をしていきたい。</p> <p>3. VGMについては、プログラム変更要望でも頂いている課題であるので、検討していきたい。</p> <p>4. 検討時間を要する案件は早めに提案させて頂いている。出来るだけ皆様のご意向に沿うように進めていきたい。</p>

※WG等の議事要旨は、「NACCSホームページ」にて公表をさせていただいております。



NACCSセンターホームページ：  
[https://www.naccs.jp/archives/7g\\_naccs/senmon/index.html](https://www.naccs.jp/archives/7g_naccs/senmon/index.html)

## 2. 第1回合同WG結果報告

### 【WG後のご意見・要望①】

項番	議題	項目	意見・要望	検討内容（回答）
1	Web NACCS 対象業務の拡大		モバイル端末などへの対応も検討するとの記載があるが、官側業務の拡大（タブレットでの審査終了入力）などは本部会とは別の場などで7次NACCSで導入する等の検討はされているのでしょうか、ご教示願います。	ご要望について関係省庁へお伝えさせていただきます。 なお、官側業務の運用に関する内容については、本WGの検討範囲に含まれません。
2	Web NACCS 対象業務の拡大	IAS	WGのWeb化対象業務の中に、「担保照会（IAS）」業務がありました。これは、パッケージソフトにも同業務はそのまま残るという理解でよろしいのでしょうか、それとも、WebNACCSのみの業務となるのでしょうか。通関業においては、申告に際して、輸入者の担保残額があるか確認することが多く、パッケージソフトに同業務が残っていたほうが、利便性が良いので。	ご意見として承りました。 今後、関係者皆様にご意見をいただき、整理させていただきます。
3	インターネット経由の新たな自社システム接続方式		現在、NACCSセンターとの接続は専用回線を利用しております。 接続方法について、更改作業が始まる際に変更の必要があるかを検討させていただきます。	ご意見として承りました。 利用者の皆様に必要な情報はできるだけ前広にご案内したいと考えています。 なお、現在専用回線を利用して接続する処理方式は、引き続き第7次NACCSにおいても提供いたします。
4	メール処理方式の廃止		メール処理方式の廃止について見直しをお願い致したく。 理由と致しまして、新方式では大量の業務件数を同時時間帯に処理する必要がある場合、業務処理に時間を要することになり利用者へのサービス低下を懸念するものです。	ご意見として承りました。 利用者様への影響やご意見を鑑みつつ、メール処理方式の提供の継続について検討させていただきます。
5	メール処理方式の廃止		メール処理方式のみを提供しているベンダーも存在しているが、現在使用しているGWベンダーの違いによって特定のUserのみが不利益を被らないような更改対応をする必要があると考えます。メール方式を廃止することで開発コストの抑制をNACCSセンターは考えておられるとのことであったが、そのコスト抑制をどのようにUserに還元されていくのかをご教示願いたい。Userにとって追加の開発費用の負担など不利益のみであるのならば検討の必要性を感じられないのが現時点の弊社における認識となります。	ご意見として承りました。 利用者様への影響やご意見を鑑みつつ、メール処理方式の提供の継続について検討させていただきます。
6	メール処理方式の廃止		・これまでGWでメール処理方式を使用していた者は、メール処理方式廃止後は資料5『インターネット経由の新たな自社システム接続方式』を使用して、自社システムと繋げることになるということでしょうか。 ・netNACCS仕様で自社システムと繋げる場合、自動受信の設定はないと思いますが、その点も含め自社システムを改修する必要が出てくるということでしょうか。 ・メール処理方式の廃止は、自社システムへの影響が大変大きく、改修が間に合わない懸念がある。	ご意見として承りました。 利用者様への影響やご意見を鑑みつつ、メール処理方式の提供の継続について検討させていただきます。 なお、メール処理方式から別処理方式へ変更検討される場合は、同様の通信技術を利用するSMTP双方向処理方式をお勧めいたします。
7	メール処理方式の廃止		7次NACCS更改後に、恐らく現在使用しているGWパッケージのバージョンアップがあると思われるので、問題ないかと思えます。	ご意見として承りました。

## 2. 第1回合同WG結果報告

### 【WG後のご意見・要望②】

項番	議題	項目	意見・要望	検討内容（回答）
8	メール処理方式の廃止		複数の業務をまとめて送信できなくなるのは困る。メール処理方式が廃止になっても複数の業務をまとめて送信できるよう代替案を検討願いたい。	ご意見として承りました。 利用者様への影響やご意見を鑑みつつ、メール処理方式の提供の継続について検討させていただきます。
9	国際連携機能と各種デジタルプラットフォーム連携について		更改作業開始の際、他との連携があれば、対応したいと思います。	ご意見として承りました。
10	その他		個別業務の検討が9月から行われますが、検討する内容はどのようにして 取り上げられるのでしょうか。 NACCSのプログラム変更要望から抽出ということでしょうか。	アンケートやヒアリング結果の他、過去のプログラム変更要望で「システムへの影響」「自社システムへの影響」により単年度で対応不可とした等の要望を検討課題として第2回合同WGで提案をさせていただきます。
11	その他	ACL01 MFR DOR CDN01	プログラム変更（4件）	単年度要望として検討させていただきます。「システムへの影響」「自社システムへの影響」等により実施が困難な場合には、改めて第7次での検討項目とさせていただきます。

なお、個別に頂きましたプログラム変更要望については、個別にご案内の通り、2020年度要望として取り扱いをさせていただき単年度でのシステム負荷等による影響により対応不可となった案件は、今後詳細仕様での検討とさせていただきます。

### -WGの提案議題の結果-

NO	WG	議題	結果
1	第1回	業務仕様の考え方	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。 ○
2	第1回	オンライン業務の統廃合	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。 ○
3	第1回	WebNACCS対象業務の拡大	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。 ○
4	第1回	インターネット経由の新たな自社システム接続方式	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。 ○
5	第1回	メール処理方式の廃止	メール処理方式の提供の継続について検討させていただきます。 △
6	第1回	国際連携機能と各種デジタルプラットフォーム連携について	ご意見を勘案しつつ、提案の通り、進めさせていただきます。 ○